

日本農業新聞

都市農山漁村交流活性化機構(まちむら交流きこう)は、同機構の持つ4000余りの直売所や農家レストランなどの情報を、カーナビに提供するプロジェクトに取り組んでいる。これま

でカーナビに装備されていなかった直売所情報などへの期待は大きく、来年度のスタートに向けて、すでにいくつかのメーカーから問い合わせがきている。

カーナビに提供

予想超す反響

まちむら交流きこう

直売所はこちら

来年度スタート

この事業は農水省の広域連携共生・対流等推進交付金事業を利用したもので、予算規模は600万円。地域資源の有効活用の観点から、グリーン・ツーリズムの高まりに合わせた有効な施策を展開する。

農山漁村の直売所や農家民宿などを訪れる場合は、自家用車が多い。しかし、カーナビ情報は道の駅などに限られており、幹線道路以外では頼りにならないこともしばしば。電話番号や地番で検索しても、データの不足で表示されないことも多い。

そのため、利用者が二の足を踏んだり、予定の時間に着けなかったりする、いわば「情報空白地帯」で、利用が滞る。そこでカーナビに入れる位置情報は、所在地ではなく、緯度経度情報をマップコードという地図情報数字に変換し利用する。マップコードは最近のカーナビや携帯電話には利用機能があり、誰でも使える方式だ。

同機構では来年度のスタートを目指して、各施設の許諾作業やデータの処理を進めているが、早くもカーナビメーカーからはかなりの打診があり「予想以上の注目を集めている」(齋藤章一専務)と反響の大きさに驚いている。ゆくゆくは農家レストランのメニューや売れ筋などの、画像やデータも提供したいと期待が膨らむ。

11月から高知県で、使い勝手や課題などを探るため、モニターを募集している。モニターは実際に高知県内を走行して、アンケートに答える。謝礼1万円。問い合わせは同機構、(03)3354-0000(03)3354-0012。

し、動きだそうとしている。